

イネ科通信 16

マコモとしめ飾り

2012/12/02

しめ飾り

我家ではここ数十年、小型のしめ飾りを購入して飾っています。2013 年度のしめ飾りを写真に収めました。今まではどんな意味があるのかわらずに玄関の上に飾っていました。今回、インターネットで調べたものを以下に引用しました。

現在の神社神道では「社（やしろ）」・神域と現世を隔てる結界の役割を意味する。また神社の周り、あるいは神体を縄でう結界の意味もある。御霊代として神がここに宿っているのは、神域はすなわち常世を意味する現世（うつしよ）つの世界の端境や結界を表し、いる。御旅所にも張られ、海の注連縄が張られ、よく知られる正月、家々の門、玄関、出入り飾りも、この注連縄の一形態で



囲い、その中を神域とし厄や禍を祓（みたましろ）・依り代（よりしろ）するという印ともされる。古神道にお（とこよ）であり、俗世は現実社会であり、注連縄（しめなわ）はこの二場所によっては禁足地の印ともなって岩礁の内、奇岩とされるものなどにもものとして夫婦岩がある。また日本の口、また、車や自転車などに飾る注連あり、厄や禍を祓う結界の意味を持ち、

大相撲の最高位の大関の中で、選ばれた特別な力士だけが、締めることを許される横綱も注連縄である。現在でも雷（稲妻）が落ちた場所で特に水田などでは青竹で囲い、注連縄をはって、五穀豊穰を願う慣わしが各地で行われている。

しめ飾りとマコモ

しめ飾りのしめ縄は今まで、すべてイネ藁で作られているものとばかり思っていました。ところが今年購入したしめ飾りは「マコモ」で作られていました。

マコモは基部が淡水中に沈む大型の多年草で、太くて長い根茎をひき、稈（茎）は束生し、高さ 1～2.5m になります。池、沼などの水中に生えていて手の届かないところばかりでしたが、10 月 26 日の大泉緑地観察会ではすぐ目の前に現れました。やっと君と握手できたなという気持でした。

花序は大きな長円錐形で枝の上半部は雌性、下半分は雄性の小穂をつけます。

左の写真は大泉緑地のマコモですが、見にくいので右へ貝塚市の池で撮影したものを添えました。

